

東北地方 1 か月予報

(2 月 2 8 日から 3 月 2 7 日までの天候見通し)

平成 1 6 年 2 月 2 7 日
仙台管区气象台発表

< 特に注意を要する事項 >

向こう 1 か月は寒暖の変動が大きいです。

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

向こう 1 か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

気圧の谷が数日の周期で通過し、期間の前半は気圧の谷の通過後冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れる日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は平年並、降水量は平年並か多い、日照時間は平年並でしょう。




週別の気温は、1 週目は平年並か低い、2 週目は平年並、3 ~ 4 週目は平年並か高い見込みです。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[気 温] 東北地方 

[降 水 量] 東北地方 

[日照時間] 東北地方 

 低い (少ない)  平年並  高い (多い)

< 気温経過の各階級の確率 (%) >

[1 週目] 東北地方 

[2 週目] 東北地方 

[3 ~ 4 週目] 東北地方 

 低い  平年並  高い

< 予報の対象期間 >

1 か月 : 2 月 2 8 日 (土) ~ 3 月 2 7 日 (土)
1 週目 : 2 月 2 8 日 (土) ~ 3 月 5 日 (金)
2 週目 : 3 月 6 日 (土) ~ 3 月 1 2 日 (金)
3 ~ 4 週目 : 3 月 1 3 日 (土) ~ 3 月 2 6 日 (金)

< 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 3 月 5 日
3 か月予報 : 3 月 2 5 日 (木) 1 4 時 0 0 分

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温）

	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	気 温()		
				1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
大船渡	3.1	81.8	158.0	1.9	2.5	3.8
新庄	1.6	105.6	105.0	0.3	1.0	2.3
若松	2.5	60.5	129.4	1.0	1.8	3.4
深浦	2.2	73.3	104.6	1.0	1.6	3.0
青森	1.6	68.1	127.1	0.2	0.9	2.4
むつ	1.0	73.2	139.1	-0.3	0.3	1.8
八戸	1.8	47.8	160.2	0.5	1.2	2.7
秋田	2.8	87.1	121.2	1.5	2.1	3.6
盛岡	1.4	72.0	155.4	-0.1	0.7	2.3
宮古	2.6	82.1	170.0	1.4	2.0	3.3
酒田	3.8	96.0	112.5	2.6	3.2	4.6
山形	2.6	62.9	135.7	1.2	2.0	3.5
仙台	4.1	65.2	170.3	2.9	3.6	4.8
石巻	3.3	62.4	176.6	2.1	2.8	4.1
福島	4.4	68.3	166.6	3.1	3.8	5.3
白河	3.1	63.3	170.8	1.8	2.6	4.0
小名浜	5.8	93.8	177.5	4.8	5.4	6.5

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.5	84～ 112	94～ 107
東北日本海側	-0.4～+0.4	88～ 107	93～ 107
東北太平洋側	-0.4～+0.5	80～ 118	96～ 106

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.7～+0.7	-0.6～+0.7	-0.3～+0.5
東北日本海側	-0.7～+0.7	-0.6～+0.6	-0.3～+0.6
東北太平洋側	-0.7～+0.7	-0.7～+0.6	-0.3～+0.6

< 参考資料（利用上の注意） >

（１）気温・降水量等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間ににおける各階級の出現率が等分（それぞれ 33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率（階級の定義から各階級とも同じで 33％）から大きく隔たった確率（10％や 60％、70％など）を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

東北地方 1 か月予報解説資料

平成 16 年 2 月 27 日 仙台管区気象台

1．実現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月(2 月 28 日～3 月 27 日)：

気圧の谷が数日の周期で通過し、期間の前半は気圧の谷の通過後冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並ですが、寒暖の変動が大きいでしょう。

1 週目(2 月 28 日～3 月 5 日)：

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置になる見込みです。東北日本海側は雪や雨の日が多く、東北太平洋側でも明後日(2 月 29 日)は天気のかずれる所があるでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

2 週目(3 月 6 日～3 月 12 日)：

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3～4 週目(3 月 13 日～3 月 26 日)：

天気は数日の周期で変化するでしょう。

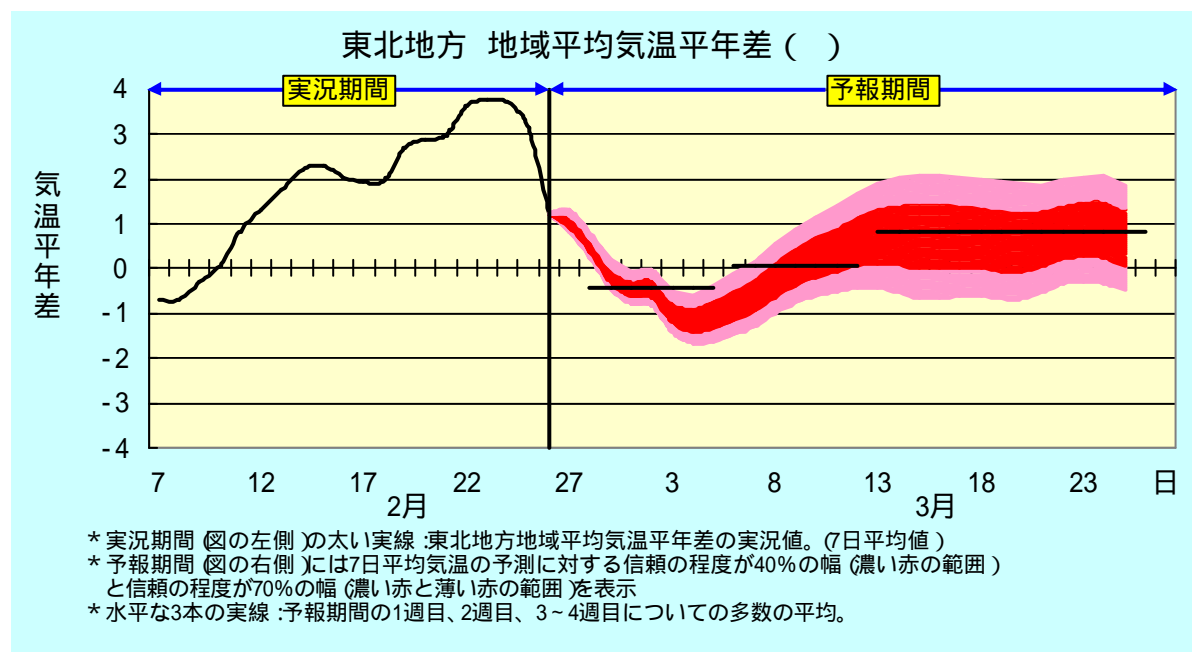
平均気温は平年並か高いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北日本海側	11.6 日	2.4 日	2.7 日	6.4 日
東北太平洋側	18.1 日	4.6 日	4.5 日	9.2 日

2．東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1 週目と 2 週目は「平年並」、3～4 週目は「高い」と予測している。予報は、その他の資料から、1 週目を「平年並か低い」、3～4 週目を「平年並か高い」に変更する。なお、数値予報の信頼度は大きい。



3．数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

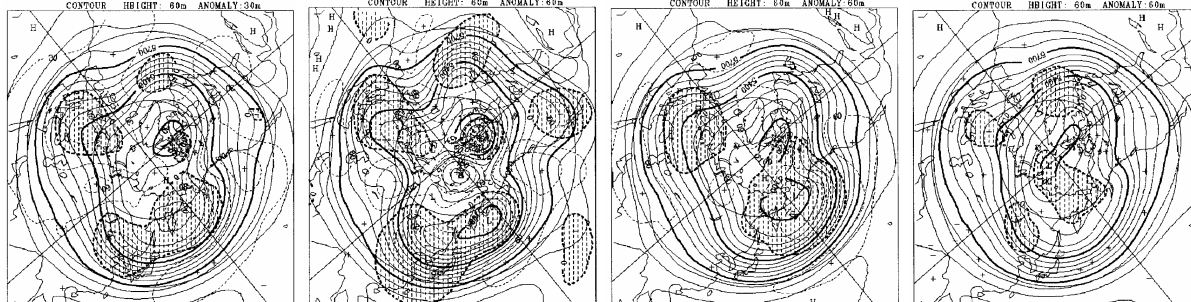
月平均では、極域は正偏差。中緯度は、北海道から黄海付近まで負偏差に覆われるが、東北以南は正偏差となる。北日本は寒気の影響を受けやすいが、西谷傾向で南からの暖気の影響もあり、寒暖の変動が大きい見込み。

週別に見ると、1 週目日本域は広く負偏差で、アリューシャン付近の低圧部が明瞭。2 週目以降、日本付近は正偏差に覆われる。2 週目は東谷傾向で、天気の大きな崩れはない見込み。

28(2-29)DAY MEAN (2/28- 3/26) 7(2- 8)DAY MEAN (2/28- 3/ 5) 7(9-15)DAY MEAN (3/ 6- 3/12) 14(16-29)DAY MEAN (3/13- 3/26)

500hPa HEIGHT AND ANOMALY 500hPa HEIGHT AND ANOMALY 500hPa HEIGHT AND ANOMALY 500hPa HEIGHT AND ANOMALY

CONTOUR HEIGHT: 60m ANOMALY: 60m CONTOUR HEIGHT: 60m ANOMALY: 60m CONTOUR HEIGHT: 60m ANOMALY: 60m CONTOUR HEIGHT: 60m ANOMALY: 60m



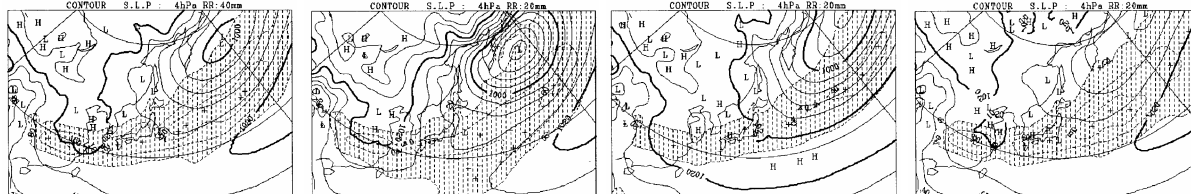
地上気圧と降水量：

月平均では、冬型の気圧配置だが、等圧線の間隔が広く周期変化。降水域は日本付近に広くかかるが、降水域の中心は東日本から日本の南海上。

週別に見ると、1 週目は冬型の気圧配置で、アリューシャン低気圧が強い。北日本は 2 週目も冬型の気圧配置となるが、等圧線の間隔は広がり周期変化。3～4 週目は等圧線の間隔がさらに広がり、平年と同様に天気は数日の周期で変わる見込み。

S.L.P. AND RR S.L.P. AND RR S.L.P. AND RR S.L.P. AND RR

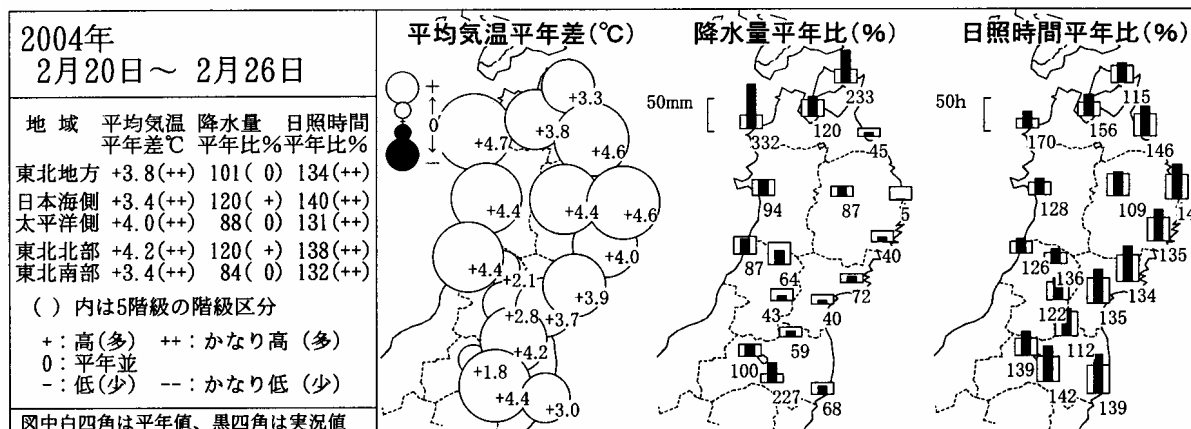
CONTOUR S.L.P.: 4hPa RR: 40mm CONTOUR S.L.P.: 4hPa RR: 20mm CONTOUR S.L.P.: 4hPa RR: 20mm CONTOUR S.L.P.: 4hPa RR: 20mm



4．最近 1 週間（2 月 20 日～2 月 26 日）の天候の経過

この期間、20～22日は移動性高気圧に覆われて概ね晴れた。22日夜以降は低気圧や寒冷前線が短い周期で東北地方を通過し、通過後は冬型の気圧配置となった。特に、23日は冬型の気圧配置が強まり、暴風により青森県では1名が死亡した他、東北各地で被害が発生した。また、22日は日本海の低気圧に向かって暖気が流入したため各地で高温となり、秋田、八戸、酒田、福島は2月として日最高気温の極値を更新した。

平均気温はかなり高い。降水量は東北北部で多く、東南北部で平年並。日照時間はかなり多い。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)